

さくら耳のねこが家にやってきた

一宮南部小・5 杉江 葉奈

夏休みになって少したったとき、家の庭にさくら耳のねこが来ました。私の家の周りには野良ねこがたくさんいるのでそのうちの1匹きかなと思っていました。

外で生きるねこはかこくなかん境で生きていて、食べ物や水、安全なねどこをさがして生活しています。外のねこはネズミや鳥などの小動物をかったり、人間の食べ残しや残飯をあさったりして食事を確保しています。また、雨風をしのげる場所や、温かい場所を求めて移動し、ときには他のねこ協力して寒さをしのぐこともありです。だから、私はそんなかこくなかん境で生きぬくねこを大切にしたいと思いました。

私は、家で「セブン」という女の子のねこを飼っています。この子も元は野良ねこで、家の近くの用水路に落ちておぼれていたところを助けて飼うようになりました。家の庭に来たねこは家で飼っているセブンと姉妹ではないかと思うくらいすごく似ていてびっくりしました。家族も「すごく似ているね。」と言ってとてもびっくりしました。

さくら耳のねこは、飼い主のいないねこにふにん手術を実施することではんしよくを防止し、「地域ねこ」や「さくらねこ」として生活しています。

保護ねこ活動というのがあって保護されたねこの里親を見つけ

るために、じょうと会や、地域ねこになったねこたちのごはんをあげるボランティアなどの活動があります。じょうと会に出るねこは野良ねこで保護したねこたちがほとんどです。保護ねこ活動はほとんどがボランティアや寄付などで運営されています。

私がさくら耳のねこにできることは、けいけい心が強いねこがほとんどなのでやさしく見守ることや、けいけい心をとくように接することだと思いました。他に、水やご飯をあげることもできると思ったので、さくら耳のねこがいるときにごはんを置いて遠くから見ていると少しづつごはんを食べてくれました。

次の日もまた家の前で待っていたのでごはんをあげることにしました。ごはんをあげるようになってからそのさくら耳のねこはほぼ毎日家に来るようになりました。

朝ごはんを食べにくる時間は六時ごろです。朝早くから家の前でごはんをもらうために待っているようです。朝早くから待っていると、い、ご飯をあげるために私は早起きになりました。

でも、ある日いつもの時間になってもさくら耳のねこは来ませんでした。私はさくら耳のねこが毎日来ていたので何かあったのでは、と心配になりました。だけど、次の日はまたいつもの時間には家の前に来ていました。それを見て私はとても安心しました。

毎日ご飯をあげているとだんだんなれているなと思いました。ご飯をあげて食べる時始めのころはびくびくしながらご飯を食べて私が少しでも動くとびくびくして遠くににげてしまっていました。でも、今では、ご飯を食べるのを近くで見てもびくびくしないし、少し動いただけならにげなくなりました。まだまだけいけい心は強いけどいつかこのさくら耳のねこにさわれるくらい仲良くなりたい

と思っています。

うちに来るさくら耳のねこだけではなく、ほかにたくさんいる野良ねこたちは、おなかをすかせたり、暑かったり寒かったりするかこくなかん境で生活しなくてははいけません。中には、交通事故でけがをしたり死んでしまったりするねこも少なくありません。そんなねこを一匹きでも少なくしたいです。

そのために私ができることは何か考えて行動していきたいです。小学生の私にはできることが少ないけれど、この話をいろいろな人に話し、伝えていくことで話を聞いた人が何か活動に協力したいと思ってもらえるとうれしいです。

そして、その人たちがだれかに外のねこの話をして、どんどん活動のことが知れわたり協力してくれる人がたくさんになれば、きつと外のねこで大変な生活をせずに幸せにくらせるねこも増えてくると思います。